

## 高齢者の生活意識と衣服環境 — 女性の年齢差と地域差について —

田岡 洋子 ・井澤 尚子\* ・高森 壽\*\*  
斎藤 祥子\*\*\* ・青木 迪佳\*4

京都短期大学・東京家政学院短期大学\* ・熊本大学\*\*  
北海道教育大学\*\*\* ・元県立長崎シーボルト大学\*4

Living Consciousness and the Clothing Environment among Senior Citizens.

— On the Age differences and Regional differences among Womens —

**要旨** 望ましい高齢者の衣服についての調査を2001年10・11月に北海道から九州の8地域の居住する元気な高齢者を対象に質問紙調査法を実施した。有効回収数1,092票、有効回収率93.7%であった。生活意識として、心配ごととは健康で、それを維持するために、食べ物に注意している。楽しいことは人と接することで、外出や旅行を好み、おしゃれ感もあり、服装におしゃれ感のある人が多い。着用時の留意点としては「足もとには履きやすいもの」「色・柄・デザインが気に入ったもの」「肌触りがよく柔らかいもの」など女性60才代、70才代、80才代の間に有意差のある25項目中17項目で、因子分析後の因子得点は「自己表現」に高得点を得た60才代と低得点の80才代。また、地域的には「自己表現」の高得点地域は関東、四国、近畿で、「実用性」は近畿、四国、が高得点であった。「調和」の高得点は九州、北海道、中部、四国の順であり、「規範性」は北海道が高得点であった。次にイメージとしては「ゆったりした」「暖かく」「上品な」「明るい」「親しみやすい」が上位で、18対の形容詞の中9対が有意差があり、因子分析後の因子得点は「活動性」に80才代は高得点を得て、低得点の60才代であった。また、地域では「容儀性」の高得点は関東、東北、近畿の順で、「活動性」は北海道、四国、中部の順に高得点であった。「親しみやすさ」は中国、関東が高得点で、「ファッション性」は近畿、中国、四国の順に高得点であった。以上のように、望ましい高齢者の衣服は年齢差、地域差があることが分かった。

**キーワード** 「生活意識」「衣服環境」「高齢社会」「おしゃれ」「着用時の留意点」「望ましい高齢者衣服のイメージ」

### 1. はじめに

昨年の紀要には性差について<sup>1)</sup> 報告したので、今回は女性の年齢差と地域差について述べる。日本は、1994.(平成6)年に高齢者(65歳以上)人口が全人口の14%を超えて本格的な高齢社会に突入した。2000年の65才以上人口比率は17.4%に達しており、今後、2020年には27.8%、2050年には35.7%になると見込まれている。<sup>2)</sup> 厚生白書(平成11年)のデータによれば、<sup>3)</sup> 65才以上の高齢者の中、介護を必要とする高齢者は、70才代までは非常に少ないことが分かる。さらに、70才代後半の高齢者でも、80%以上がいわゆる「元気な高齢者」であることから、自

立した生活を送ることができる高齢者が多く存在すると考えられる。

人間生活において、「衣・食・住」は基本的要素であるが、中でも衣生活は、衣服の着脱行為を中心とした人間特有の文化であり、衣服は人間と生活空間との間に存在する、最も身近な環境である。衣服には寒暑や外界の刺激から身体を保護したり、汗や污垢を吸収し皮膚の衛生を保つなどの物理的機能がある一方、重要なものに精神的機能がある。衣服を工夫し「装う」ことの中に充実感を見出し、かつ「装い」により自己を表現しようとすることは、生きる意欲を高め、精神の活性化をも起こすと考えられる。<sup>4)</sup> 現在、日本ではほとんどの人が既製服を着用しているが、これらのデザインは、若者を対象としたものが主流であり、高齢者へ配慮したデザインやサイズは少ないように考えられる。

本研究は、北海道から九州に至る 8 地域に居住する、自立生活ができる高齢者を対象に生活意識と衣服環境についての調査を実施し、高齢社会に対応した安全で快適な衣服についての基礎資料を得て、望ましい高齢者の衣服についても明かになることを目的とした。その結果、2、3 の知見を得たので報告する。

## 2. 方 法

### 2-1. 調査時期、調査対象及び調査方法

調査は、2001年10～11月に、北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国及び九州地区に居住する介護を要しない自立した「元気な高齢者」を対象に、質問紙調査法を用いて行なった。有効回収数1,092票、有効回収率93.7%であった。分析に用いた調査対象者の内訳を表1に示す。

### 2-2. 調査枠組及び調査内容

最近では慣習や世間体に振り回される高齢者は減り、老人体型に変わり、体力が弱ってきた高齢者が今までと同じ趣味豊かな生活をしたいと考え、自分の生活を充実させることを望んでいると考える。予備調査として資格修得間近な介護福祉士や経験豊かな社会人に対する訪問介護員養成講座などでの調査結果をもとに、高齢者の衣生活に関する既往の研究<sup>5) 6) 7) 8)</sup>を参考に本調査内容を決めた。自分の生活に対する意識は生活環境や衣服などに対する考え方と関連するという仮定にたって、図1の調査枠組を作成し、調査項目を設定した。

主な調査内容は、○基本属性（性別・年齢・家族構成・居住地域）○生活形態（居住形態・生活様式・就寝形態・職業経験）○高齢者の生活意識（日常生活における関心事・趣味・おしゃれ意識）○高齢者が考える望ましい衣服である。これらの調査内容について、質問項目16からなる調査票を作成した。本調査の統計処理においては、SPSS vol. 10を用いた。

表1. 基本属性と生活形態

		％ (人 数)			
基 本 属 性		女 性	女性60才代	女性70才代	女性80才代
性別	男性	100.0(282)			
	女性	100.0(810)			
年齢	60才代	40.7(330)	100.0(330)		
	70才代	37.7(305)		100.0(305)	
	80才代	21.6(175)			100.0(175)
世帯	一人暮らし	28.9(234)	17.0( 56)	33.4(102)	43.4( 76)
	夫婦のみ	31.0(251)	43.3(143)	30.2( 92)	9.1( 16)
	他と同居	40.0(324)	39.7(131)	36.1(110)	47.4( 83)
	無回答	0.1( 1)		0.3( 1)	
居住地域	北海道	9.9( 80)	7.0( 23)	13.1( 40)	9.7( 17)
	東北	10.0( 81)	9.4( 31)	6.9( 21)	16.6( 29)
	関東	9.9( 80)	8.2( 27)	11.5( 35)	10.3( 18)
	中部	19.8(160)	16.1( 53)	17.0( 52)	31.4( 55)
	近畿	14.0(113)	16.1( 53)	16.1( 49)	6.3( 11)
	中国	12.5(101)	14.2( 47)	14.4( 44)	5.7( 10)
	四国	4.9( 40)	8.2( 27)	3.9( 12)	0.6( 1)
	九州	19.1(155)	20.9( 69)	17.0( 52)	19.4( 34)

生 活 形 態		女 性	女性60才代	女性70才代	女性80才代
居住形態	一戸建て	72.1(584)	74.8(247)	74.4(227)	62.9(110)
	集合住宅	14.8(120)	20.3( 67)	12.5( 38)	8.6( 15)
	その他	13.0(105)	4.5( 15)	13.1( 40)	28.6( 50)
	無回答	0.1( 1)	0.3( 1)		
生活様式	和室生活	74.4(603)	77.9(257)	76.1(232)	65.1(114)
	洋間生活	24.8(201)	21.2( 70)	23.3( 71)	34.3( 60)
	和洋生活	0.5( 4)	0.6( 2)	0.7( 2)	
	無回答	0.2( 2)	0.3( 1)		0.6( 1)
就寝形態	ベッド使用	44.0(356)	31.5(104)	44.9(137)	65.7(115)
	布団使用	55.7(451)	68.5(226)	54.4(166)	33.7( 59)
	無回答	0.4( 3)		0.7( 2)	0.6( 1)

基 本 属 性	北海道女性	東北女性	関東女性	中部女性	近畿女性	中国女性	四国女性	九州女性
年齢	60才代	28.8	38.3	34	33.1	46.9	46.5	67.5
	70才代	50	25.9	45	31.9	43.4	43.6	30
	80才代	21.3	35.8	21	35	9.7	9.9	2.5
家族構成	一人暮らし	25	21	19	29.4	39.8	23.8	10
	夫婦のみ	25	11.1	39	21.5	30.1	53.5	50
	他と同居	40	67.9	42	49.1	29.2	22.8	40
	無回答	8.8	2.5	0	0	1.8	0	0

生 活 形 態	北海道女性	東北女性	関東女性	中部女性	近畿女性	中国女性	四国女性	九州女性
住まいの型	一戸建て	96.3	70.4	71	77.9	53.1	85.2	80
	集合住宅	2.5	2.5	26	8	34.5	13.9	17.5
	その他	1.3	27.2	3	14.1	11.5	1	2.5
	無回答	0	0	0	0	0.9	0	0
生活の様式	和室生活	73.8	55.6	78	77.9	80.5	89.1	82.5
	洋間生活	26.3	44.4	29	22.1	15	10.9	15
	和洋生活	0	0	0	0	2.7	0	2.5
	無回答	0	0	0	0	1.8	0	0
ベッドの使用	有り	46.3	59.3	34	48.5	29.2	34.7	32.5
	無し	53.8	40.7	66	51.5	68.1	65.4	67.5
	無回答	0	0	0	0	2.7	0	0

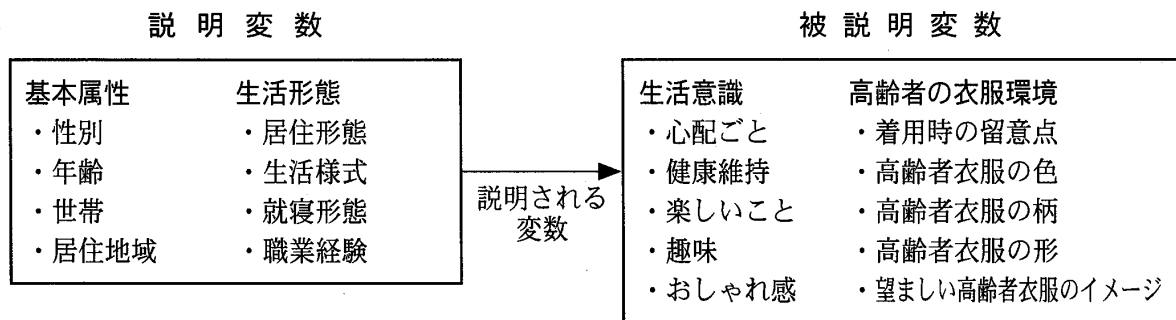


図1 調査枠組

### 3. 結果と考察

#### 3-1. 調査対象者の概要

基本属性や生活形態などの調査データを単純集計し、表1に示す。調査対象者は女性810名の協力を得た。女性の特徴を検討するために、年代別に分けて比較する。60才代と70才代は調査対象者の各4割で、80才代は2割である。地域別に各世代を検討すると、四国・九州の60才代が多いが、北海道・関東は70才代の比率が多く、80才代は全体的に少ない。お元気な高齢者の年齢としては現状を踏まえている。<sup>2)</sup> 家族構成は女性の一人暮らしが多く、家事など生活必須条件を整えることが女性には容易なためと考えられる。女性の一人暮らし世帯数が今後さらに増加することが予測されている。<sup>2) 9)</sup> 年齢別女性の比較をすると夫婦のみの生活は老齢になるほど減少傾向にあり、一人暮らしや他と同居は増加傾向にある。地域別には東北・北海道・中部は他と同居が多く、四国・中国は夫婦のみの生活が比較的多い。九州・近畿は一人暮らしが多い。気候風土的を考えて、厳しい気候風土の地域は同居することで、快適生活が出来ると考えられる。

#### 3-2. 生活形態

住いの形は一戸建て、集合住宅ともに老齢化するほどに少なくなっている。地域的にも一戸建てに住いをしている人が多く、近畿・関東では集合住宅が3割を占めている。都心のマンション住いと考えられる。生活様式は老人体型に変化し、日本の伝統である畳み生活をするより、イス生活の方が暮らしやすいと考えるが、7割半の方々が和室生活をされ、老齢化するほどに、少なくなる傾向で、洋間生活をされている割合が増えている。これは現状にあわせた良い傾向である。就寝形態は年齢を重ねるほどにベッド使用がふえている。布団のあげおろしは重労働で、腰や膝への負担を少なくするにはベッドがよいと考えられる。また、地域的には九州・東北のベッド使用がより多い。

## 4. 生活意識

### 4-1. 高齢者の生活意識

高齢者の生活意識を明らかにするため、1) 今、心配していること。2) 健康維持のために注意していること。3) 今、楽しいこと。4) 趣味。5) おしゃれへの関心について、聞いた。その結果を表2に示す。

今、「一番心配していることは何か」についての回答では8割以上の人が健康について心配し、高齢化がすすむほどに、より多くのことを心配している。70才代の人の1割以上の人が経済の

表2. 生活意識

生 活 意 識		％ (人 数)			
		女 性	女性60才代	女性70才代	女性80才代
心配ごと (複数回答)	健康	84.8(687)	87.0(287)	84.9(259)	80.6(141)
	家族の事	16.3(132)	17.3( 57)	15.4( 47)	16.0( 28)
	経済	9.0( 73)	7.9( 26)	12.1( 37)	5.7( 10)
	近所付き合い	1.6( 13)	1.8( 6)	2.0( 6)	0.6( 1)
	友達付き合い	3.6( 29)	3.3( 11)	3.6( 11)	4.0( 7)
	その他	3.5( 28)	1.8( 6)	2.3( 7)	8.6( 15)
健康維持 (複数回答)	食べ物	62.7(508)	63.6(210)	65.2(199)	56.6( 99)
	運動	39.0(316)	41.5(137)	38.7(118)	34.9( 61)
	睡眠を充分とる	44.7(362)	41.5(137)	43.6(133)	52.6( 92)
	ストレスをためない	37.0(300)	39.7(131)	36.7(112)	32.6( 57)
	その他	4.3( 35)	3.3( 11)	4.3( 13)	6.3( 11)
楽しいこと (複数回答)	人と接する事	62.8(509)	64.5(213)	62.6(191)	60.0(105)
	運動する事	15.8(128)	24.0( 79)	21.0( 64)	13.7( 24)
	寝る事	10.2( 83)	8.2( 27)	9.2( 28)	16.0( 28)
	食べる事	23.8(193)	20.9( 69)	26.2( 80)	25.1( 44)
	その他	10.5( 85)	9.4( 31)	8.9( 27)	15.4( 27)
外出(趣味)	好き	75.6(612)	81.2(268)	76.4(233)	63.4(111)
	嫌い	3.6( 29)	2.7( 9)	2.3( 7)	7.4( 13)
	どちらでもない	20.9(169)	16.1( 53)	21.3( 65)	29.1( 51)
	無回答				
旅行(趣味)	好き	77.0(624)	83.0(274)	79.7(243)	61.1(107)
	嫌い	4.3( 35)	3.3( 11)	3.0( 9)	8.6( 15)
	どちらでもない	18.6(151)	13.6( 45)	17.4( 53)	30.3( 53)
	無回答				
継続趣味	有	61.9(501)	70.6(233)	61.0(186)	46.9( 82)
	無し	36.0(292)	28.2( 93)	35.7(109)	51.4( 90)
	無回答	2.1( 17)	1.2( 4)	3.3( 10)	1.7( 3)
おしゃれ感	有り	83.0(672)	90.9(300)	82.0(250)	69.7(122)
	無し	16.5(134)	9.1( 30)	16.7( 51)	30.3( 53)
	無回答	0.5( 4)		1.3( 4)	
おしゃれ (複数回答)	化粧	26.2(212)	27.9( 92)	29.8( 91)	16.6( 29)
	ヘアースタイル	34.9(283)	41.2(136)	32.5( 99)	27.4( 48)
	服装	66.7(540)	74.2(245)	65.6(200)	54.3( 95)
	小物	7.7( 62)	7.3( 24)	9.5( 29)	5.1( 9)
	アクセサリー	15.2(123)	20.0( 66)	14.4( 44)	7.4( 13)
	履き物	11.7( 95)	15.2( 50)	10.5( 32)	7.4( 13)
	その他	1.2( 10)	1.8( 6)	0.3( 1)	1.7( 3)

表 2. 生活意識 (つづき)

生活の現状		北海道女性	東北女性	関東女性	中部女性	近畿女性	中国女性	四国女性	九州女性
心配事	健康	80	82.7	91	87.1	86.7	94.1	90	74.2
	家族の事	16.3	29.6	35	17.8	9.7	5	10	12.3
	経済	6.3	8.6	18	13.5	12.4	4	2.5	3.9
	近所付合い	1.3	0	0	4.3	1.8	0	2.5	1.3
	友達付合い	0	9.9	5	4.9	3.5	0	5	1.9
	その他	1.3	7.4	1	2.5	0.9	1	0	9
健康維持	食べ物	47.5	56.8	77	60.1	75.2	55.4	47.5	68.4
	運動	22.5	33.3	29	42.3	57.5	38.6	32.5	40.6
	睡眠を充分とる	33.8	61.7	61	49.1	47.8	32.7	22.5	40.6
	ストレスをためない	23.8	38.3	43	30.1	53.1	26.7	30	44.5
	その他	7.5	1.2	3	3.7	1.8	6.9	12.5	3.9
楽しい事	人と接する事	52.5	70.4	77	69.3	66.4	58.4	65	49.7
	運動する事	8.8	13.6	19	23.3	30.1	36.6	15	12.9
	寝る事	7.5	21	12	18.4	6.2	2	5	6.5
	食べる事	1.5	23.5	35	32.5	22.1	13.9	30	20
	その他	17.5	12.3	19	6.7	7.1	4	12.5	11.6
外出(趣味)	好き	70	70.4	84	66.9	80.5	80.2	65	81.3
	嫌い	6.3	8.6	1	6.1	0	1	2.5	2.6
	どちらでもない	23.8	21	14	27	19.5	18.8	32.5	16.1
旅行(趣味)	好き	70	70.4	84	72.4	85	78.2	77.5	78.1
	嫌い	8.8	11.1	1	4.9	0	2	5	3.9
	どちらでもない	21.3	18.5	14	22.7	15	19.8	17.5	18.1
継続趣味	有り	42.5	44.4	70	55.2	68.1	66.3	60	76.8
	無し	56.3	55.6	30	44.2	18.6	33.7	40	23.2
	無回答	1.3	0	0	0.6	13.3	0	0	0

おしゃれ感		北海道女性	東北女性	関東女性	中部女性	近畿女性	中国女性	四国女性	九州女性
おしゃれ感	有り	80	67.9	95	79.1	85.8	89.1	82.5	83.9
	無し	20	30.9	5	20.9	12.4	10.9	17.5	15.5
	無回答	0	1.2	0	0	1.8	0	0	0.6
おしゃれ	化粧	18.8	25.9	39	18.4	36.3	20.8	20	29.7
	ヘアースタイル	32.5	38.3	35	30.7	41.6	34.7	35	34.2
	服装	47.5	58	82	68.7	69.9	61.4	62.5	72.9
	小物	13.8	2.5	6	5.5	12.4	5	10	7.7
	アクセサリー	6.3	9.9	22	19.6	16.8	5.9	12.5	20
	履き物	8.8	3.7	13	4.9	20.4	7.9	7.5	21.3
	その他	1.3	1.2	1	1.2	2.7	1	0	0.6

ことを心配し、60才代ではまだ定年になったばかりの頃で、退職金などの貯えがあり、70才代には将来のことを考えて、経済の事を多く心配していると考えられる。地域的には健康のことはすべての地域で7割以上心配し、関東・東北は家族のことを3割以上が心配している。経済のことは関東・中部・近畿が1割以上心配している。

前述したが、多くの人が健康のことを心配し、その健康維持のために注意していることは何かについて重複回答を得た。食べ物、運動、ストレスをためないなどは年齢を重ねるほどに少なくなる傾向にある。80才代では自分で食事作りをしている人は少ないと考えられるし、運動も出来るのには限界があると思われる。睡眠を充分とるのは80才代に多く、生活の基本である食べ物に対して注意をしている。高齢者にとって食生活は、大きく二つの意味を持っている。

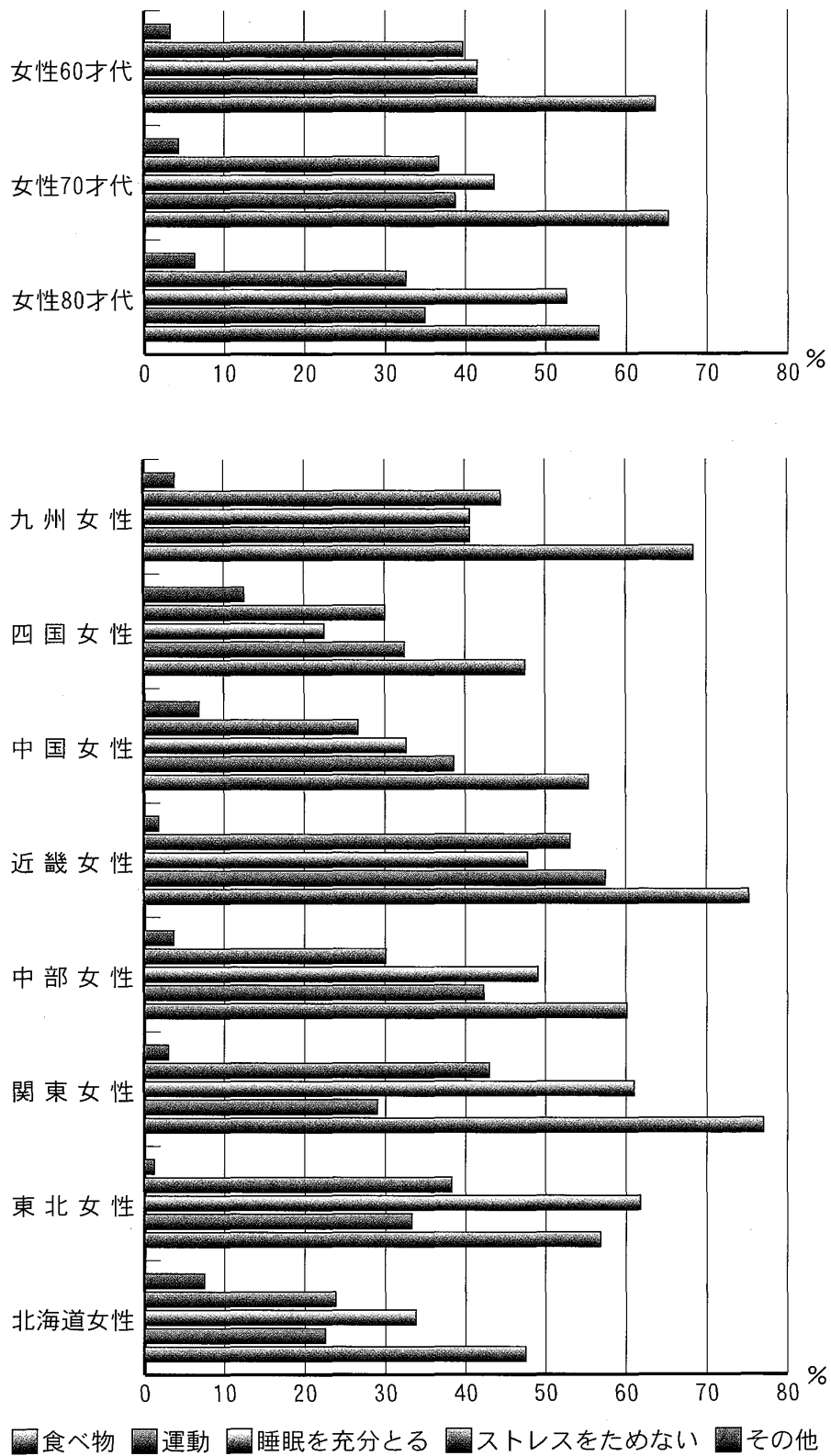


図2. 健康維持のために

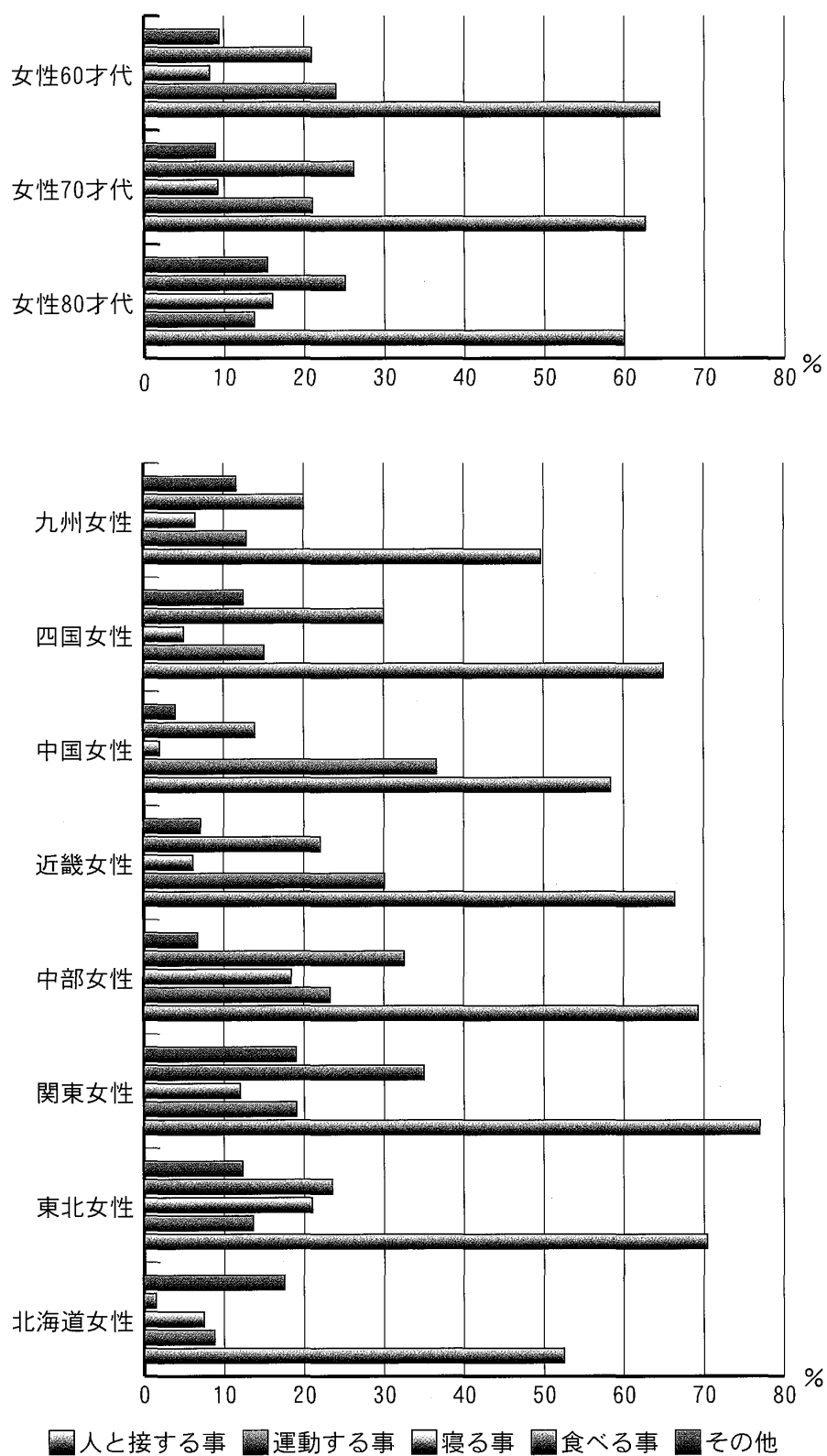


図3. 楽しいこと

一つは栄養素を摂取すること、もう一つは生活の中での楽しみである。食生活の重要性はすべての世代に共通であるが、特に高齢期においては、食欲が低下し、消化吸收機能も衰える。こうした点も考慮して適切な栄養素をバランスよく適量摂取することが、健康を維持するためには重要である<sup>10)</sup>と考えられ、本研究において食べる事に注意する調査対象者が多かったことは健康維持のために望ましい傾向であると言える。地域別では健康維持のために食べ物を気にしている順は関東・近畿・九州・中部・東北・中国・北海道・四国である。運動をするのは近畿・中部。睡眠を充分とるのは関東・東北・中部・近畿で、ストレスをためないようにするのは近畿・関東・九州の順に多い結果を得た。

今、一番楽しいことは人と接することとの回答を6割の人で、年齢的には少しづつ、高齢化がすすむと少なくなっている。地域的には関東・東北・中部・近畿・四国・中国・北海道・九州の順に減っている。その次は食べることに約2割の回答を得て、年齢を重ねると25%に増える。地域的には関東・中部・四国・東北・近畿の順に多い。運動することは60才、70才代が2割以上で、80才代は13.7%と少なくなっている。外出することが好きは、年を重ねると8割から6割へと減り、地域的には関東・九州・近畿・中国の8割以上の女性が外出好きとの回答を得た。

これらの外出に対する回答は高齢者にとっては良い傾向である。なお、外出より旅行は計画性や経済的の負担が必要であるが、旅行好きが8割弱と外出より少し多い。60才代は83.0%、70才代79.7%、80才代は61.1%に減少している。嫌いが60・70才代とも3%であるが、80才代では8.6%と少し増加している。これはどちらでもないの数値が増えているわけで、地域的には70%以上で、近畿・関東は84%以上である。

また、現在の生活の中で続けている趣味の有無について回答を得た。その結果、続けている趣味が有るのは6割以上の人で、継続趣味があるのも年齢を重ねるごとに減少傾向にある。地域的には九州・関東・近畿・中国・四国の順に減少傾向にある。継続趣味がないのは近畿が18.6%と少ない。これらの調査から楽しく生活し、よりよい環境のもとで、趣味は生きがいの一つになっていると考えられる。

#### 4-2. おしゃれ感

外出や旅行には日常(ケ)と異なるハレの気持ち(緊張感)やおしゃれに心を配ることがある。ハレの気持ちを持つことが変化のあるよりよい生活に結びつける。女性の8割の人がおしゃれ感があると回答している。おしゃれ感は60才代が9割、70才代は8割、80才代は7割と減少傾向にある。80才代になってもおしゃれ感があることは大変良い傾向である。おしゃれ感があると回答した人にどのようなことにおしゃれ感があるのかを7項目の中から重複回答を求めた。その結果、服装におしゃれ感がある人は5割から7割の人で、ヘアースタイルは4割から3割の人である。化粧は3割の人が若い頃からの身だしなみと考えている。60・70才代の人が気を

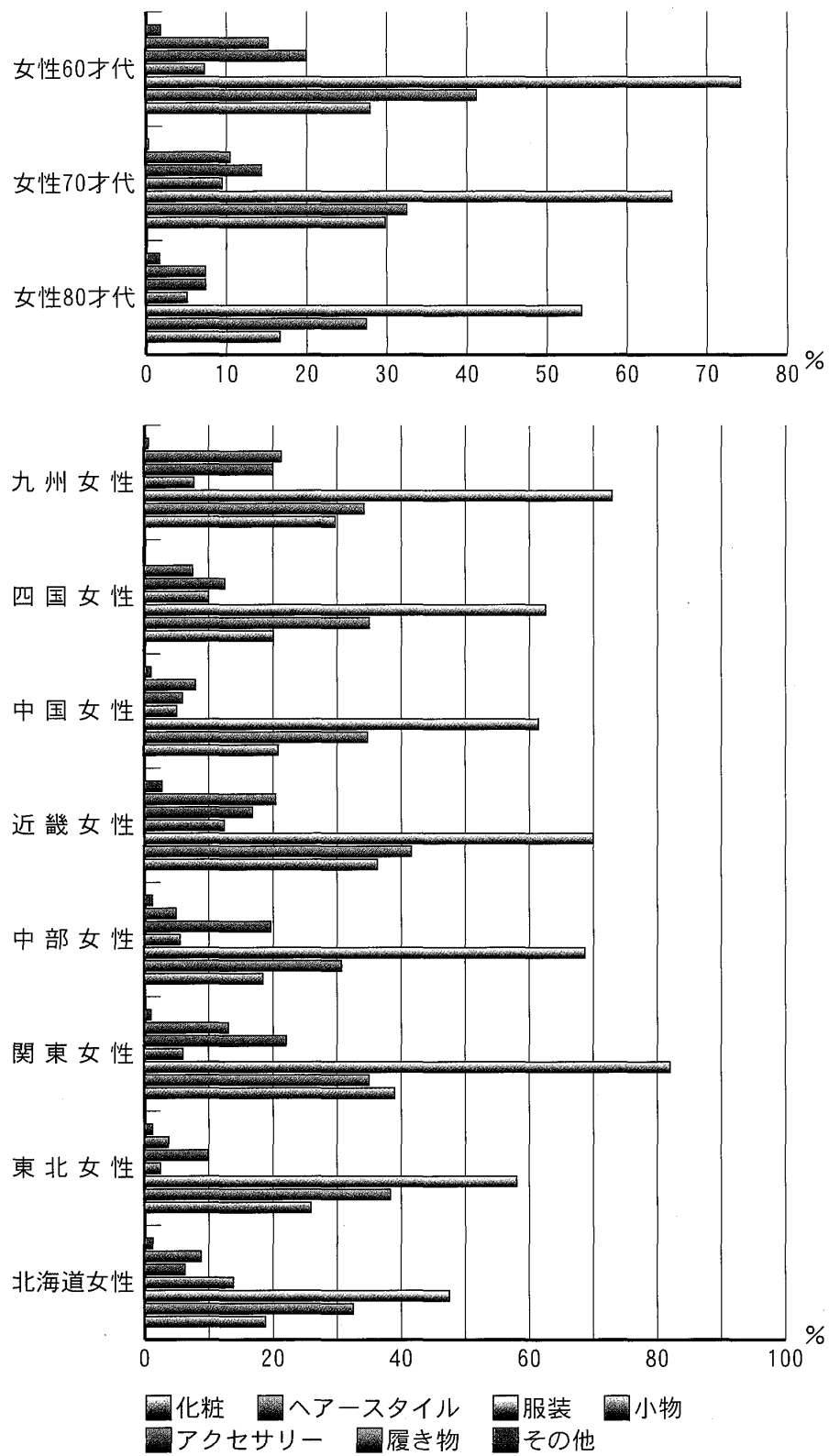


図4. おしゃれの内容

遣い、おしゃれをしているのは良い傾向である。また、女性のおしゃれ関心事項は多岐にわたっていて、服装に関心が高いことは、心理面に与える影響が大きく、特に女性の場合は臭覚、視覚、触覚を動員した化粧行為は、心身の活性化に有効であるといわれている。<sup>11)</sup> なお、女性の年齢別では服装、ヘアスタイル、アクセサリ、履き物、小物とも老齢化に伴い減少傾向にある。地域別では関東・九州・近畿・中部の順に服装を、近畿・東北はヘアスタイルにおしゃれ感のある割合が多い。

## 5. 望ましい高齢者の衣服

### 5-1. 着用時の留意点（日常着の重要項目）

日常着を着用する時にどんな点について気をつけているかについて、各項目に対して「とても気をつけている」「気をつけている」「どちらでもない」「気をつけていない」「全く気をつけていない」の5件法で評価を求め、それぞれ何パーセントの人が評価をしたかを帯グラフで示した。三世代ともよく似た傾向である。

5件法に点数を付けて、「とても気をつけている」を5点に……「全く気をつけていない」に1点を付けて、平均値を出し、折れ線グラフで示した。評価のよいものは「足もとには履き

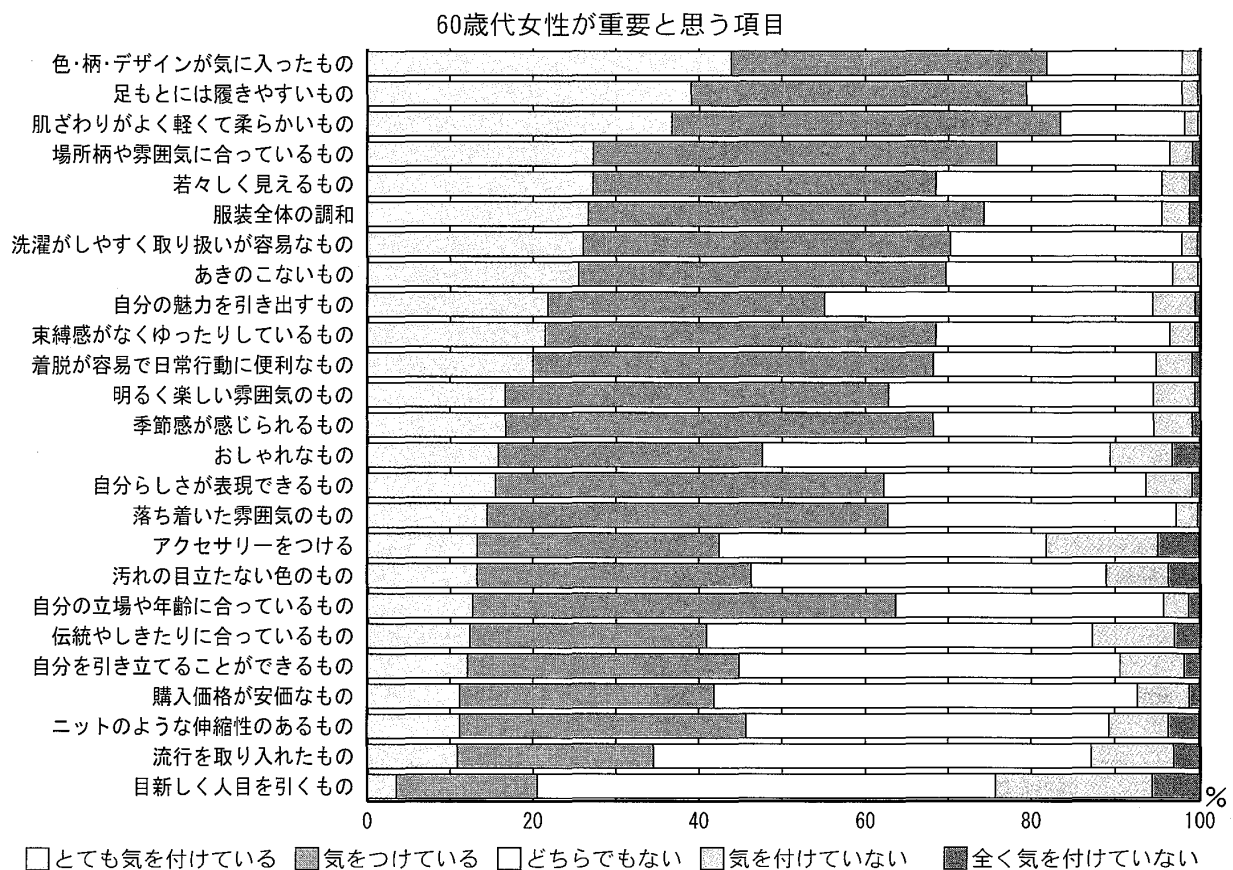


図5. 重要と思う項目

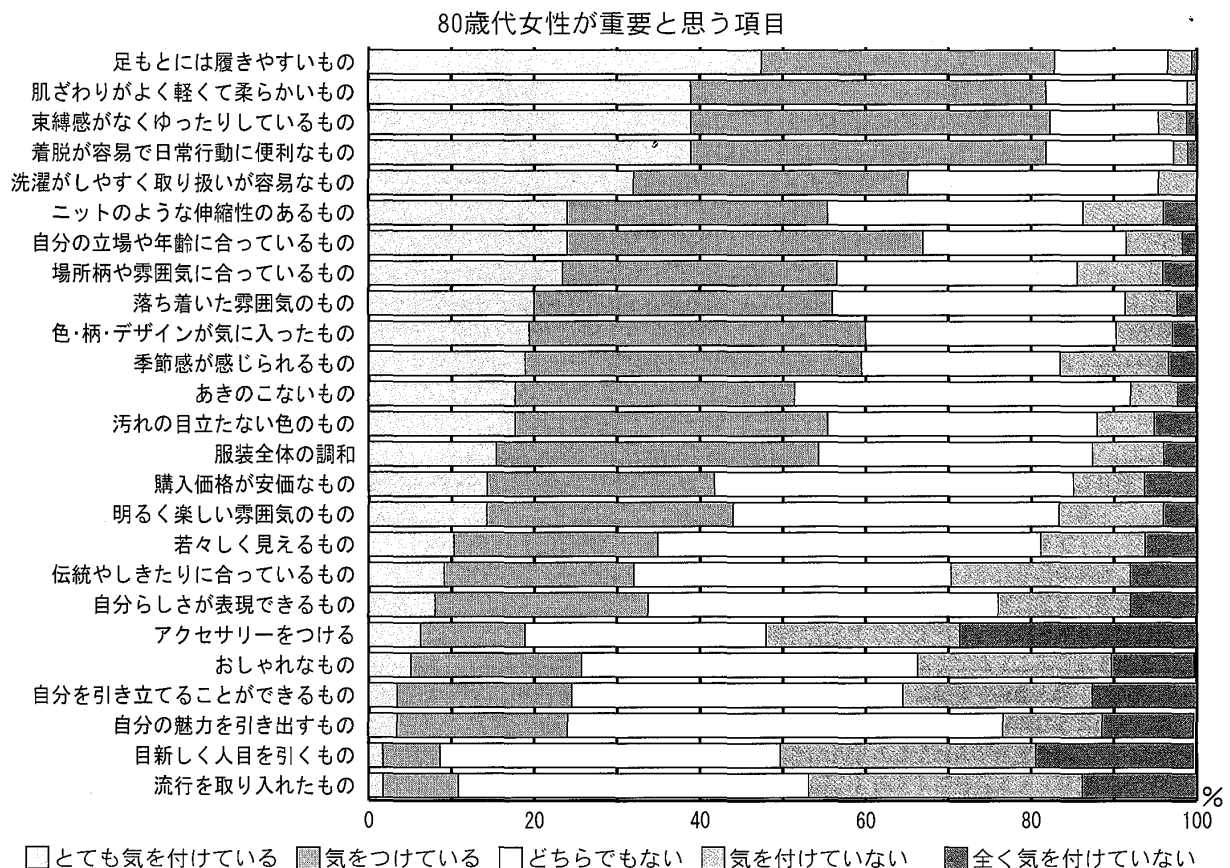
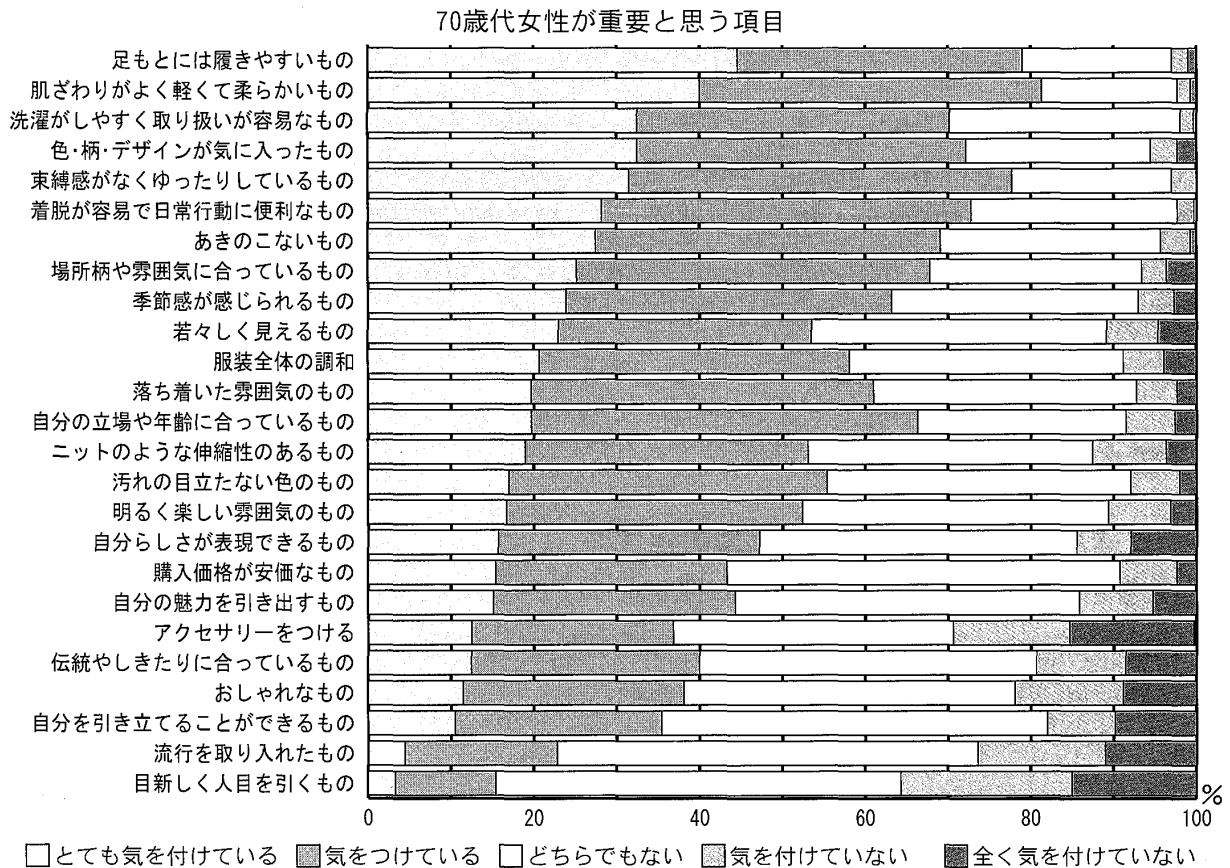


図5. 重要と思う項目 (つづき)

やすいもの」「色・柄・デザインが気に入ったもの」

「肌触りがよく軽くて柔らかいもの」「着脱が容易で日常行動に便利なもの」の順に平均値がよい評価であった。三世代の母平均の差の検定結果では25項目中17項目に有意差が認められた。その項目は「自分の魅力を引き出すもの」「アクセサリをつける」「流行をとりいれたもの」「若々しく見えるもの」「自分を引き立てることができるもの」「おしゃれなもの」「自分らしさが表現できるもの」「色・柄・デザインが気に入ったもの」「目新しく人目を引くもの」「服装全体の調和」「場所柄や雰囲気合っているもの」「伝統やしきたりに合っているもの」「自分の立場や年齢に合っているもの」「ニットのような伸縮性のあるもの」「アセサリーをつける」「おもしろい雰囲気のもの」「落ち着いた雰囲気のもの」「足もとには履きやすいもの」「購入価格が安価なもの」「洗濯がしやすく取り扱いが容易なもの」

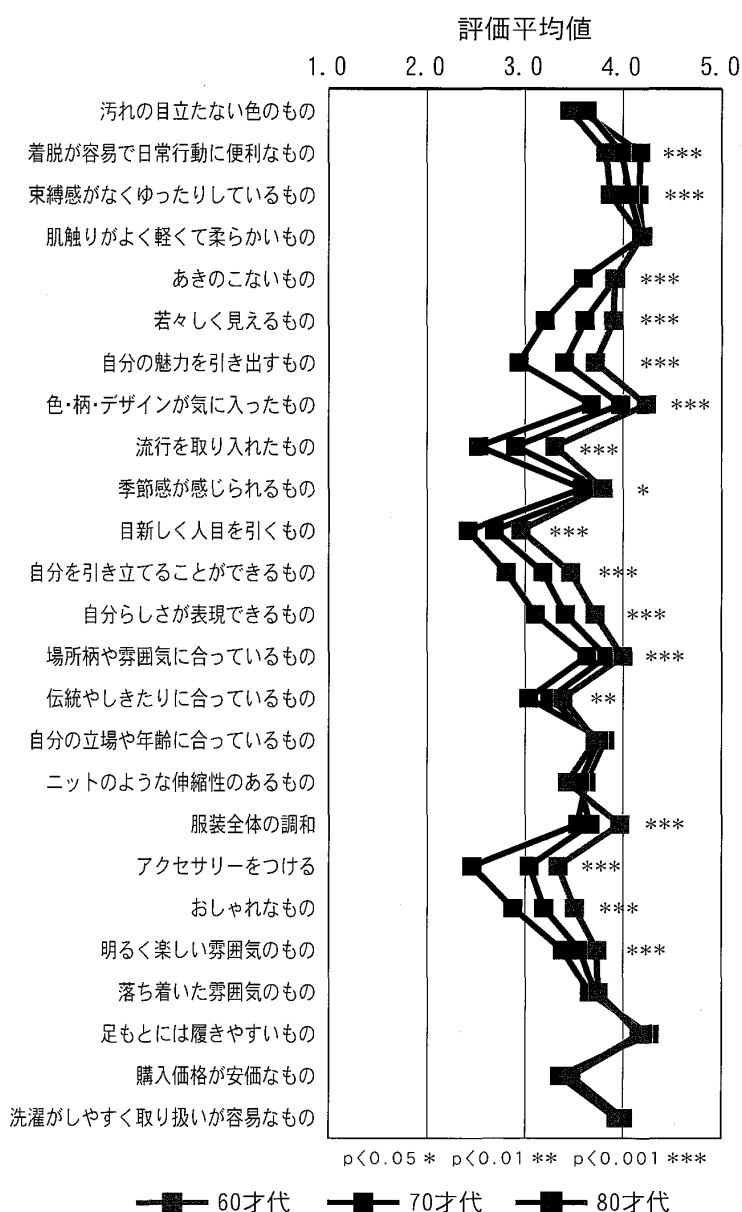


図6. 着用時の留意点

いもの」「束縛感がなくゆったりしているもの」「伝統やしきたりに合っているもの」「季節感が感じられるもの」の順に世代間の評価差が大きく、有意差のある項目である。女性として、着装時に気を付けていて、より快適に安心して自分をアピールして過ごせるものの順であると考え。

これらの項目について主因子法による因子分析を行った結果を表3. に示す。固有値1以上で5因子が抽出された。それぞれの因子に高い因子負荷量をもとに第1因子「自己表現」、第2因子「着心地」、第3因子「調和」、第4因子「規範性」、第5因子「実用性」と因子に命名し、累積寄与率47.18%である。因子得点を求めて、プロットしたものを図7. に示す。世代間を

表 3. 望ましい高齢者の衣服の重要点 因子分析結果

因子	項 目	因子負荷量	因子の意味	因子寄与率
1	自分の魅力を引き出すもの	0.759	自己表現	21.25
	自分を引き立てることができるもの	0.748		
	おしゃれなもの	0.710		
	流行を取り入れたもの	0.710		
	若々しく見えるもの	0.685		
	目新しく人目を引くもの	0.670		
	自分らしさが表現できるもの	0.660		
	アクセサリーをつける	0.614		
	色・柄・デザインが気に入ったもの	0.541		
	明るく楽しい雰囲気のもの	0.514		
2	着脱が容易で日常行動に便利なもの	0.711	着心地	9.12
	束縛感がなくゆったりしているもの	0.668		
	肌ざわりがよく軽くて柔らかいもの	0.632		
	汚れが目立たない色のもの	0.460		
	あきのこないもの	0.439		
	ニットのような伸縮性のあるもの	0.286		
3	服装全体の調和	0.492	調和	7.82
	足もとには履きやすいもの	0.472		
	季節感が感じられるもの	0.443		
	落ち着いた雰囲気のもの	0.409		
4	自分の立場や年齢に合っているもの	0.505	規範性	4.89
	伝統やしきたりに合っているもの	0.489		
	場所柄や雰囲気に合っているもの	0.487		
5	洗濯がしやすく取り扱いが容易なもの	0.680	実用性	4.10
	購入価格が安価なもの	0.552		
			累積寄与率(%)	47.18

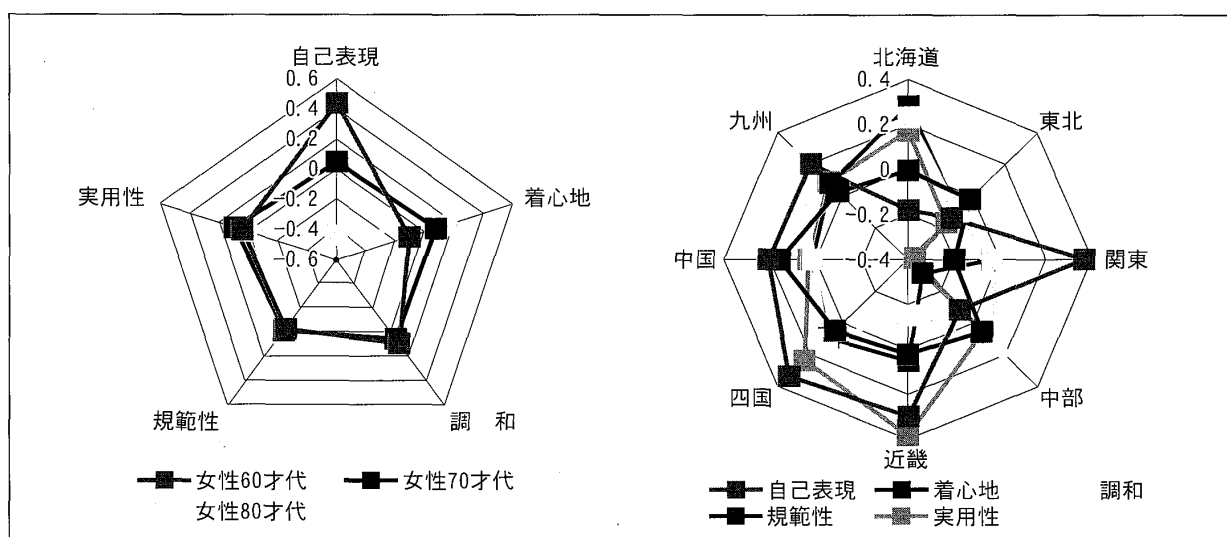


図 7. 着用時の留意因子 因子得点

比較すると「自己表現」因子の得点が60才代はプラス0.45に対して80才代はマイナス0.44である。若さのある60才代ではまだまだ、自分の表現をしていく意欲が感じられるが、80才代になると、その反応とは異なる様子が伺える。「着心地」の因子では80才代はプラス0.15で、60才代はマイナス0.11の得点で、60才代は着心地よりファッション的に自分を表現できる方を志向するが、80才代はその逆で、着心地がよい方を志向している。このように年齢による着用上の留意点が異なることが分かった。また、地域的には「自己表現」因子は関東・四国・近畿・中国・九州がプラスに北海道・東北・中部がマイナスに得点が高く、都会と気候の温暖な地域がプラスで、寒い地域が自己表現因子にマイナスとなっている。また、「実用性」の因子では近畿・四国・北海道・九州がプラスに関東・東北がマイナスに高得点である。「規範性」の因子はマイナスに関東・東北が、プラスに北海道の得点が高い。このように地域による留意特徴が分かった。

## 5-2. 高齢服の色と柄

着装されている

色は高齢者自身が  
良いと考えて使用  
していると思われ、  
複数回答を得た。  
各世代の特徴的な  
着用色をみると、60  
才代は黒色が41%、  
茶系が34.7%、ベー  
ジュ系が27.7%、エ  
ンジ色系が22.8%、  
赤色系18.5%、紺  
色が17.9%、灰色  
13.1%、緑系11.2%  
が上位である。70  
才代は茶系34.1%、  
黒色33.1%、ベー  
ジュ系30.5%、エ  
ンジ色系28.5%、  
紺色27.5%、灰色  
18.4%、紫色系

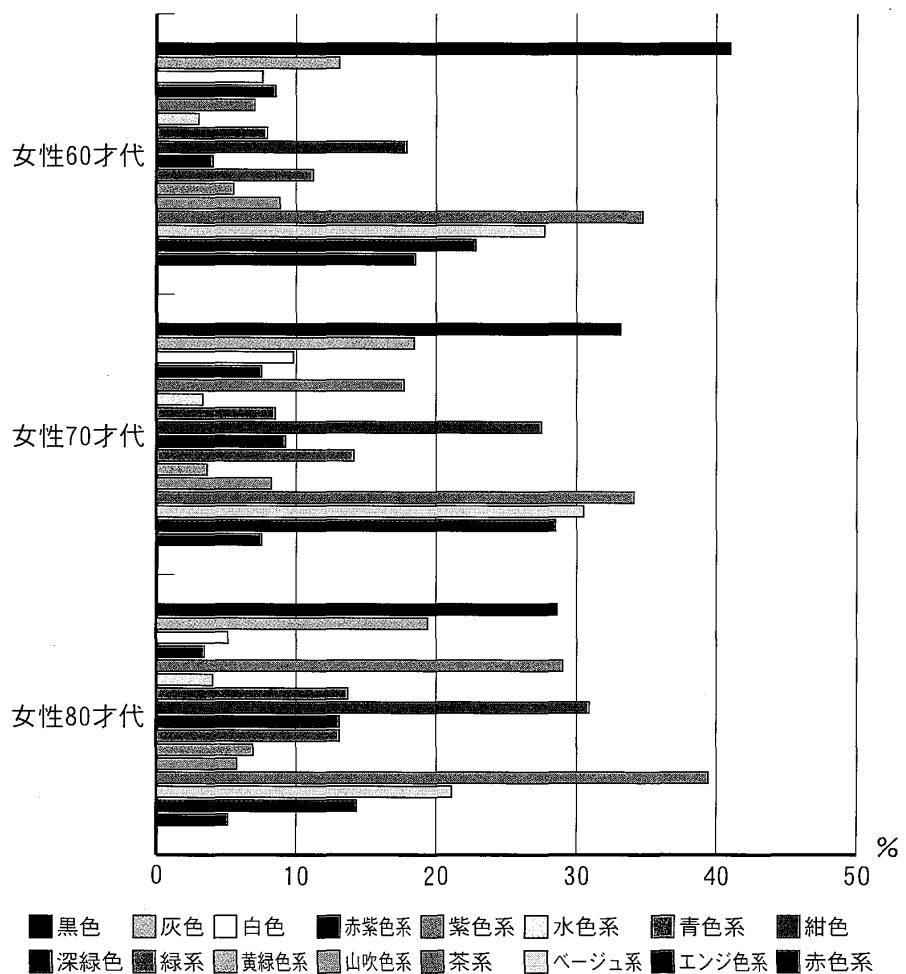


図8. 着用服の色

17.7%、緑系14.1%が10%以上の着用色である。80才代は茶系39.4%、紺色30.9%、紫色系29%、黒色28.6%、ベージュ系21.1%、灰色19.4%、エンジ色系14.3%、青色系13.7%、緑系13.1%、深緑色13.1%である。各世代に着用されている色は黒色、茶系、ベージュ系、エンジ色系、紺色、灰色、緑系である。それ以外に60才代には赤色系が18.5%あり、70才代には紫色系が17.7%ある。80才代は紫色系29%、青色系13.7%、深緑色13.1%が加わっている。若い60才代では赤色系も着用され、70,80才代では紫色系の落ち着いた色になる。緑色もあるが、深緑色が加わり、落ち着いた色のある色を着用されている。<sup>12)</sup>

地域的には10%以

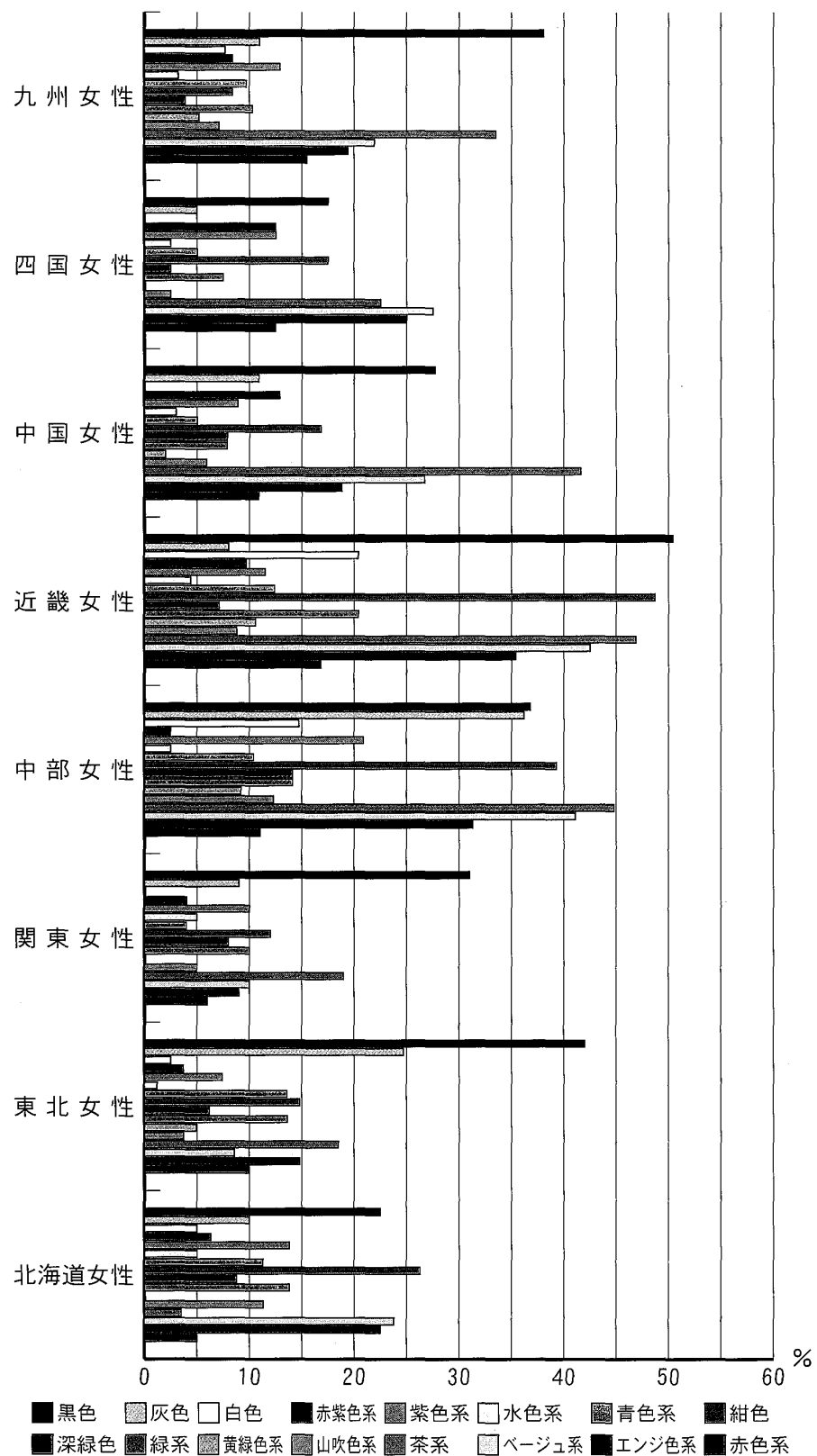


図 8. 着用服の色 (つづき)

上着用されている色を比較すると中部は13色と多くの色数を着用されている。次に近畿で、11色で、北海道は9色、中国・四国・九州は8色、東北は7色、関東は少なく6色系で、黒色、茶系、紺色、緑系、ベージュ系、紫色系とオーソドックスな色のみ着用されていた。中部は白色、深緑色、山吹色が特徴的で、緑系、赤系、青色系などカラフルな色も着用していた。一番多い着用色は黒色で、東北・関東・近畿・九州は50.4から31%と4地域で着用され、以前には喪を思わせる色、忌み嫌う色という象徴色であったが、黒の意味が異なり、最近ではおしゃれな色ということで、儀式用のみでなく、普段にも着用され、

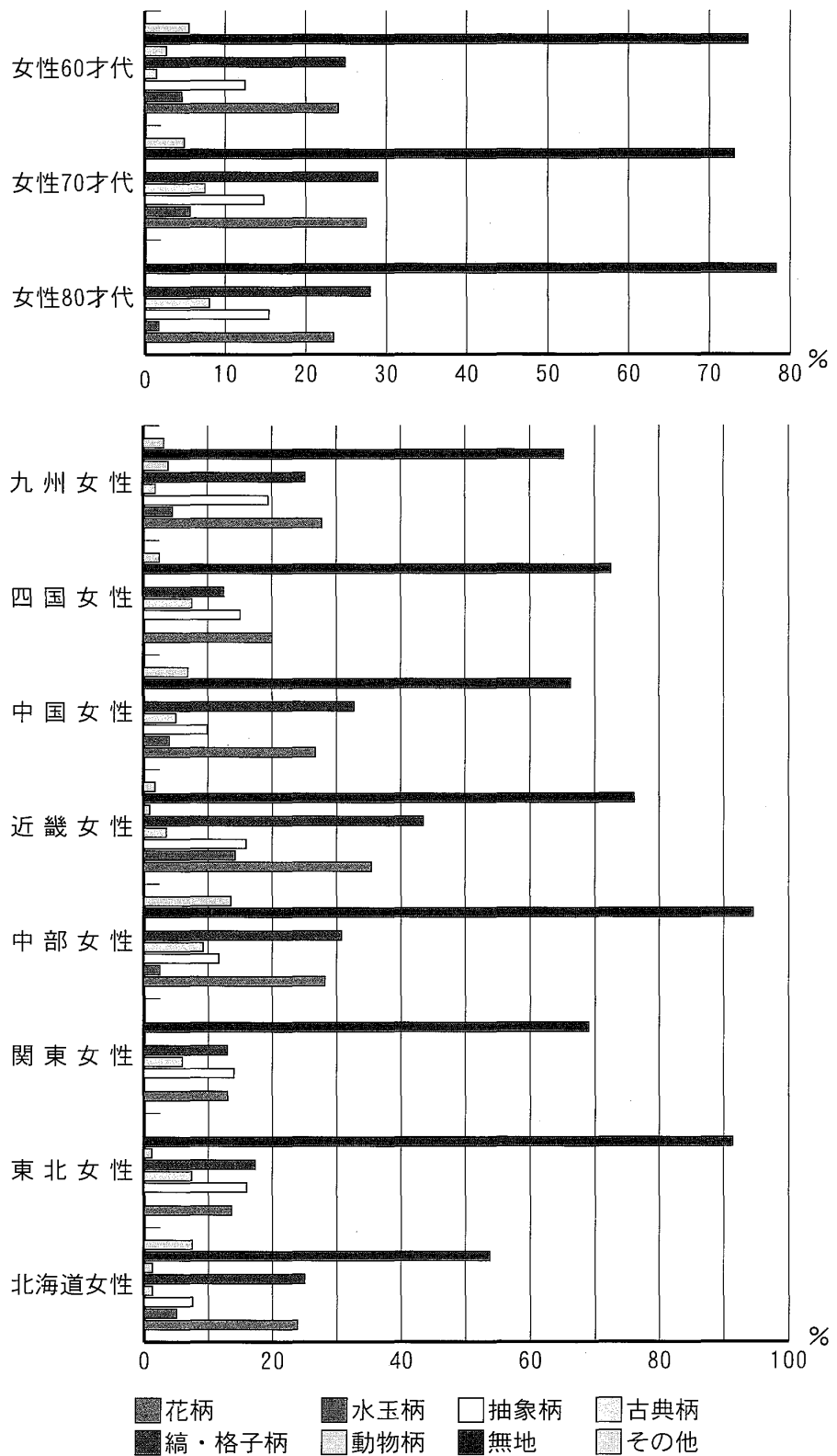


図9. 着用服の柄

素材や織り方など斬新なデザインを使用されている。

また、柄については各世代とも 8 割近くが無地を着用し、縞・格子は 3 割近くで、花柄は 2 割以上で、抽象柄は 1 割以上で、年齢的には余り変わらない。地域的にも変わらない。

### 5-3. 高齢服の形

高齢者が着装している下衣はズボン 66.3 から 72.8% を示し、スカートは 17.7 から 28% と少なく、機能性を重要視している。安全面からズボンもよいと思う。上衣については多様で、セーター・ブラウス・カーディガン・ジャケット・ベストなどがある。80 才代はこのアイテムのみであるが、60 才代には T シャツやトレーナー・ポロシャツ・ジャンパーなども 1 割以上の着用がある。下衣のジーパンもあって、80 才代とは異なる着用形態である。老齢化により増加するものはカーディガンのみで、減少するものには T シャツ、ベスト、スカート、エプロンである。ベスト以外は動的で、ベストのような重ね着のできるものを高齢者には便利と考える。地域的には関東での着用アイテムが下衣のズボンが 27% と少なく、スカート 26% とほぼ同数である。

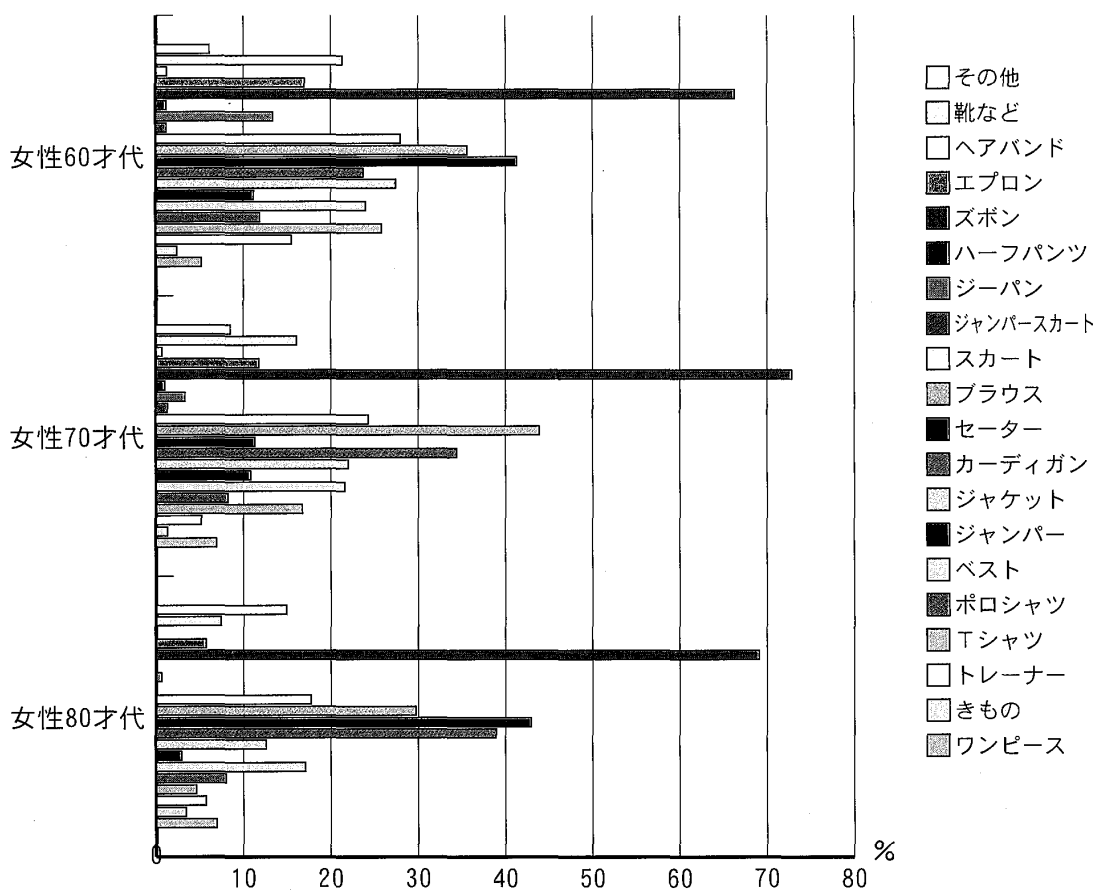


図10. 着用服の形態

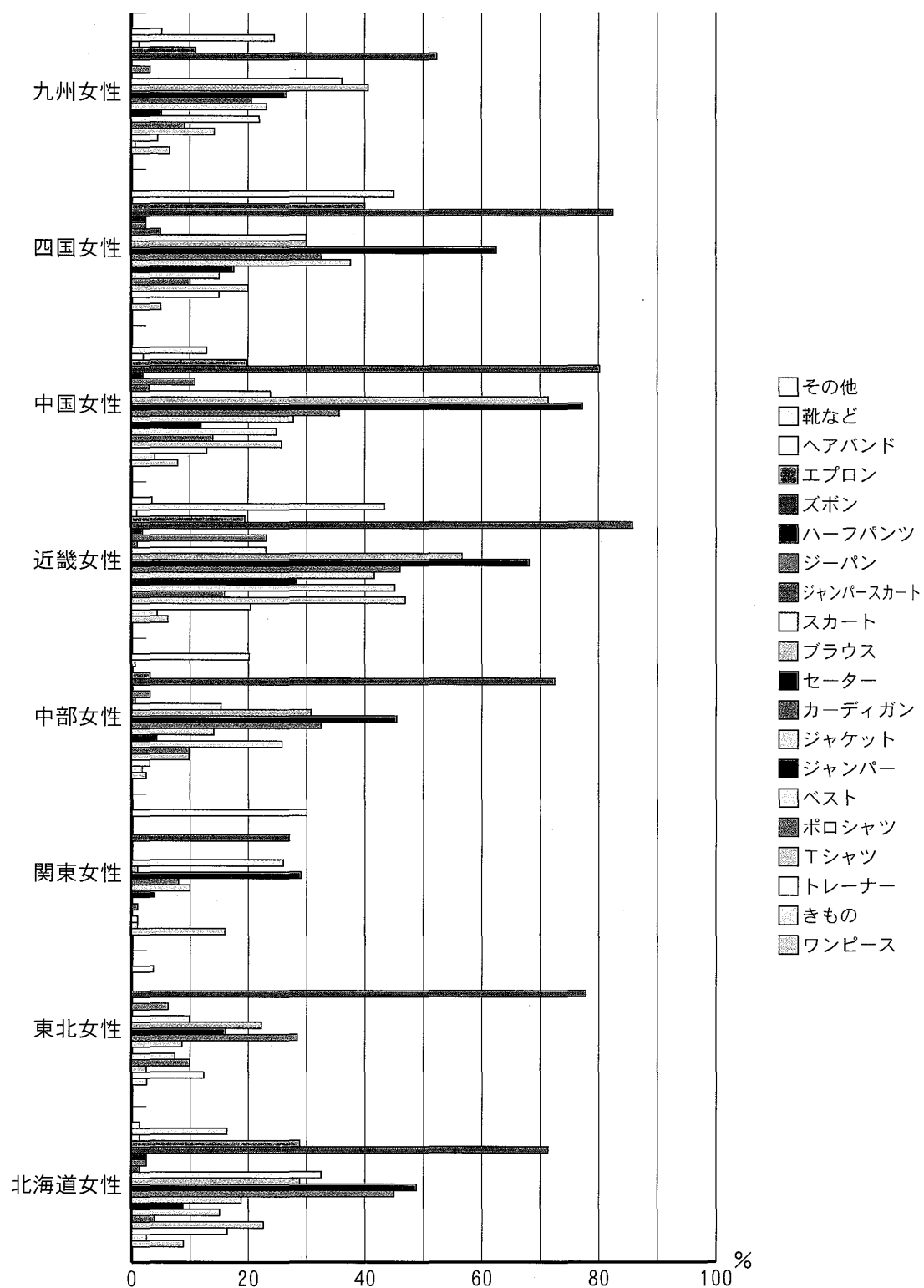


図10. 着用服の形態 (つづき)

しかし、他地域ではズボン60.9から85.8%と多く、スカートは15.3から32.5%の差は大きい。上衣のセーター・カーディガン・ブラウス・ジャケット・ジャンパー・ベストほか、近畿以西にはTシャツ・ポロシャツ・なども10%以上の着用があった。

#### 5-4. 高齢者の衣服として望ましいイメージ

高齢者の衣服として望ましいイメージは何かを16の形容詞対について提示し、調査対象者の考えが「Aの方」「ややAの方」「どちらともいえない」「ややBの方」「Bの方」の5段階評価をしてもらった。その結果をイメージプロフィールとして、図11に示す。高齢者が求める服のイメージは世代別ともほぼ

似たイメージプロフィールを示している。評価平均値の高いものから示すと「暖かい」「明るい」「上品な」「ゆったりした」「親しみやすい」で、母平均の差の検定結果では18項目中9項目に有意差が認められた。それは「個性的な/平凡な」「ファッショナブルな/オーソドックスな」「地味な/派手な」「大胆な/ひかえめな」「ゆったりした/ぴったりとした」「明るい/暗い」「暖かい/冷たい」「かたい/やわらかい」「気軽な/あらたまった」「上品な/下品な」「落ちついた/若々しい」「カジュアルな/フォーマルな」のイメージである。

これらの項目について主因子法による因子分析を行った結果を表4.に示す。固有値1以上で4因子が抽出された。それぞれの因子

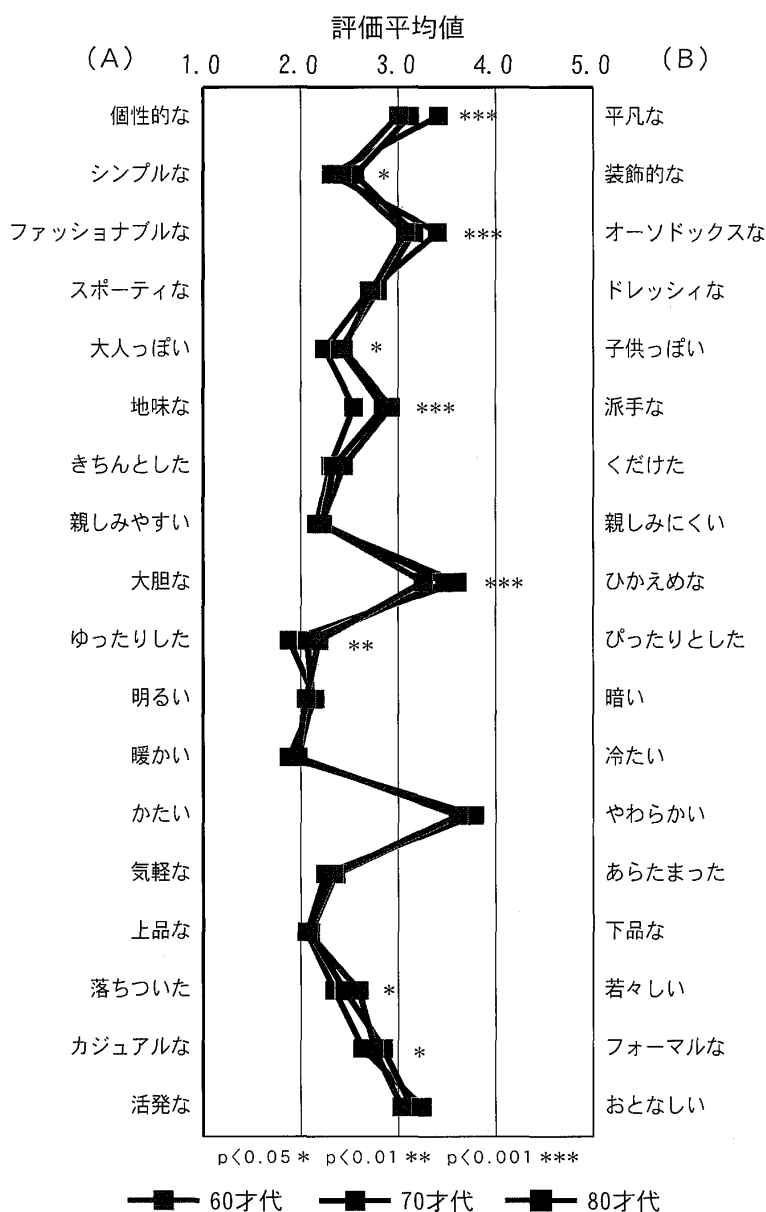


図11. 望ましい高齢服のイメージプロフィール

表4 望ましい高齢服のイメージ 因子分析結果

因子	項 目	因子負荷量	因子の意味	因子寄与率
1	暖かい／冷たい	0.718	親しみやすさ	15.98
	親しみやすい／親しみにくい	0.698		
	明るい／暗い	0.598		
	ゆったりした／ぴったりとした	0.573		
	上品な／下品な	0.573		
	気軽な／あらたまった	0.565		
	大人っぽい／子供っぽい	0.496		
	落ちついた／若々しい	0.411		
	シンプルな／装飾的な	0.381		
2	大胆な／ひかえめな	0.531	ファッション性	8.25
	個性的な／平凡な	0.492		
	地味な／派手な	-0.488		
	活発な／おとなしい	0.474		
	ファッショナブルな／オーソドックスな	0.409		
3	スポーティな／ドレスシィな	0.538	活動性	7.97
	カジュアルな／フォーマルな	0.435		
4	きちんとした／くだけた	0.459	容儀性	7.39
	かたい／やわらかい	0.294		
			累積寄与率(%)	38.70

に高い因子負荷量をもとに第1因子「親しみやすさ」、第2因子「ファッション性」、第3因子「活動性」、第4因子「容儀性」と因子を命名し、累積寄与率は38.7%である。

因子得点を求めて、図12に示す。世代別に比較すると「活動性」は80才代はプラスに60才代はマイナスに高得点で、「ファッション性」は80才代はマイナスへ60才代はプラスへ得点がある。「容儀性」は70才代がプラスへ得点があり、「親しみやすい」は三世代ともマイナス得点である。地域的には関東の「容儀性」はプラスに0.32の高得点で、東北・近畿に続く。「親しみやすさ」

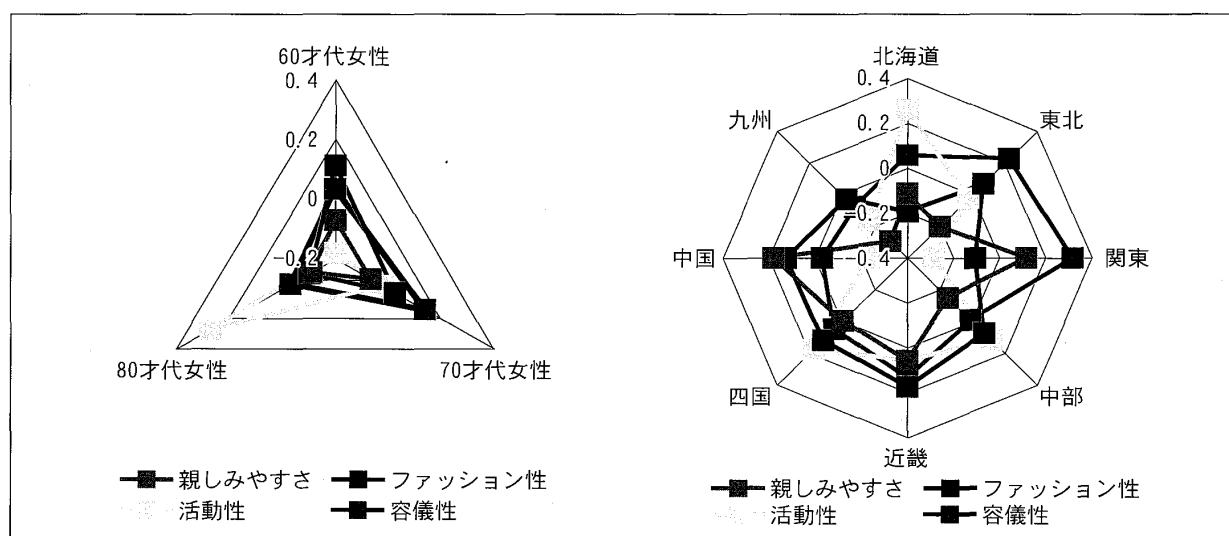


図12. 望ましい高齢服のイメージ 因子得点

は九州がマイナスに0.3、東北はマイナスに0.2、中国・関東はプラスに得点があった。「活動性」は関東がマイナス得点0.29で、北海道はプラス方向へ0.26の得点があった。このように各地域の異なった特徴がある。

## 6. ま と め

1. 家族構成については一人暮らしが老齢化に伴い増加している。地域的には寒冷地は他と同居が多いが、温暖な地域では一人暮らしが多いことが分かった。
2. 暮らしの工夫は老齢化に伴いベッド使用が増えている。地域的にはベッドの使用は少ない。
3. 健康維持のためには食べ物に注意をしている人が3世代とも5割以上である。各地域においても5割程度ある。
4. 生活環境をよりよくしたり、生きがいになるおしゃれ感の有無は老齢化に従って、9割から7割と減少傾向にある。特に服装についてのおしゃれ感が多い。地域的には5から8割の人が服装におしゃれ感をもっていることが分かった。
5. 望ましい高齢服の着用留意点を25項目について5件法による評価を求め、その項目について因子分析し、その後の因子得点から見ると「自己表現」因子に60才代がプラスに高得点を80才代はマイナスに高得点であった。高齢化の度合いによって、着用の留意点に特徴があることが分かった。また、地域的にも北海道は規範性を重要視し、関東は自己表現、近畿は実用性と自己表現、四国は自己表現と実用性、中国は自己表現と着心地、九州は自己表現に高得点で、各地域にとって留意点が異なることが分かった。
6. 高齢服の色は黒色、紺色、茶色、ベージュ系、などが多く、赤色系、エンジ色系、紫色系が女性には望ましいと回答を得た。
7. 望ましい高齢者の服には無地柄がよく、花柄、水玉柄など少しある。
8. 望ましい高齢服の形は下衣にズボンが6割以上で、スカートは2割弱である、安全面や機能性を重視しての着用である。上衣はカーディガン、セーター、ブラウスなど多様である。
9. 望ましい高齢服のイメージについては温かく、ゆったりした、上品で明るい、親しみやすく、が高評価であるが、因子分析後の因子得点では活動性にファッション性、容儀性に世代の特徴があり、地域別では北海道は活動性、東北は容儀性、関東も容儀性親しみやすさ、中部は活動性、近畿はファッション性と容儀性、四国は活動性、ファッション性、中国は親しみやすさとファッション性、に特徴があった。

## 7. 参考文献

- 1) 田岡洋子他「高齢者の生活意識と衣服環境-性差について-」京都短期大学第34巻第1号p1 (2006)
- 2) 内閣府「国民生活白書（平成13年度）」(株)ぎょうせい p25 (2002)
- 3) 厚生省「厚生白書（平成11年版）」財務省印刷局 p168-173 (1999)
- 4) 見寺貞子「ファッションにおけるユニバーサルデザインー高齢者・障害者のためのファッションショーの企画と評価ー」繊維機械学会誌 53(6) p244-253 (2000)
- 5) 中川早苗「高齢者の衣生活と衣服ニーズ-施設居住高齢者の生活に関する学際的研究の報告-」奈良女子大学生生活環境学部 1994年3月
- 6) 見寺貞子「ファッションにおけるバリアフリーデザインに関する研究-高齢者・障害をもつ人の意識に基づくデザイン要素の提案-」神戸芸術大学紀要 芸術工学'99 p68-81(1999)
- 7) 小林茂雄「老人ホームにおける衣生活とおしゃれ行動」繊維機械学会誌 53(6) p229-236 (2000)
- 8) 岡田宣子「高齢者の衣生活行動の現状と要望点-被服の調達と選択行動を中心として-」日本家政学会誌 51(7) p595-603 (2000)
- 9) 厚生省「厚生白書（平成12年版）」財務省印刷局 p19・27 (2000)
- 10) 厚生省「厚生白書（平成12年版）」財務省印刷局 p76 (2000)
- 11) 厚生省「厚生白書（平成12年版）」財務省印刷局 p82 (2000)
- 12) 田岡洋子「イラストでわかる生活・色彩」新風書房 p76 (2000)